

会報 平成おやじの会

No.132

男子バスケット部と交流

■ 「平成22年度バスケット交流戦を終えて」 吉本昌弘さんレポート

2月27日（日曜日）3年生は受験前で参加できませんでしたが、1、2年生との交流会が行われました。今年度のおやじの会の参加人数は20名を越え、内訳も高校3年生の元男子バスケット部員2名と、琴中男子バスケット部OBの高校1年生5名とおやじ3名、バスケット経験者3名、おやじの会参加者5名程…なんと言っても、今年度入部した1年生のおやじに、西高男子ハンドボール部顧問の亀山先生に参加していただきました。9時15分くらいから11時15分くらいまでの2時間。今年度はメンバーに恵まれ、私がバスケットを担当するようになり初めて勝つことが出来ました。それもすべてのゲームです。おやじチームは大満足の交流戦となりました。過激なスポーツのため用意したおやじの会常備品の酸素とエアサロンプスの出番もなく、怪我人が出なかったのが、何よりです。試合の内容は、高校生の助っ人の得点が7割以上を占めたと思います。その他バスケット経験者の得点が2割5分以上で、おやじの得点は10ゴール20点はなかったと思います。おやじ達は次の日から2,3日は筋肉痛で大変でしょうが、楽しい交流戦だったことに感謝いたします。



■ 参加者の声

男子バスケットボール部部長 遠藤雄星君

色々な年代の人たちと試合をすることで、自分たちも学ぶことがたくさんありました。今回は高校生の人たちも来ていただいて、すごくレベルの高い人たちとやれたのでとても刺激になりました。時には笑いもあり、すごく盛り上がった試合で良かったと思います。今回はありがとうございました。来年も頑張っていたきたいです。

1年生 慧(さとる)君の父・岡村俊彦さん

vs 男バスは初参加で、高校での授業以来のバスケを愉しみました。見るとやるとでは大違いで、5分もすると体育館の床やボールが歪んで見えてきました（笑）。プレーする前は「取り敢えずタックルでもカマしとけばイインですよ」なんて軽口を叩いていましたが、実際には短い時間しかプレーしていないにもかかわらず、追いつくことすら出来ず、タックルどころかディフェンスもやらずに立ち尽くすのみ……。中学生に世間の厳しさを教えてやることは次の機会へ持ち越しとなりました。おやじの会としては助っ人の活躍により勝った（星を買った？）形ですが、来年までには体を鍛え直し、息子に愛のムチを振るってやりたいと思います。（男バス部員のお父さんがもっといる方が盛り上がりませう。来年は無理やり勧誘しましょ）ありがとうございました。



■編集後記：俊敏、俊敏、俊敏。生徒の皆さんは素晴らしい動きでした。おやじには真似できません。脱帽。人一倍汗をかけた審判の皆さんにも感謝申し上げます。（種）